

## はじめに

近年の社会環境・生活環境の急激な変化は、子どもたちの「食」を取り巻く環境にも大きな影響を与え、不規則な食事や偏った栄養摂取などの食生活の乱れや肥満・痩身傾向、アレルギー疾患等、様々な課題が顕在化しています。

山口県では、国の基本計画を受けて平成29年に「第3次やまぐち食育推進計画」を策定し、「食でつながる ひとづくり 地域づくり」を基本理念として本県の食育を総合的かつ計画的に進めているところでありますが、平成30年度の全国学力・学習状況調査によると、本県における朝食を食べる習慣が定着している児童生徒の割合は、全国平均を上回るものの近年減少傾向にあります。

山口県教育委員会におきましても、各種研修会の開催や県版の「食に関する指導の手引」の作成等を行うとともに、栄養教諭の計画的な配置を行うことで、食育推進体制を整備し、栄養教諭を中核とした学校全体で取り組む食育の推進を図っているところです。これまでも、学校では様々な活動に取り組み、多くの成果を得てきましたが、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるためには、系統적かつ継続的な支援が必要であり、学校における取組だけでは十分ではありません。地域や関係機関・団体との連携を強め、子どもの日常生活の基盤である家庭とのつながりをより深めることで、子どもの食に関する自己管理能力の育成を図る必要があります。

こうした中、文部科学省委託事業である平成30年度「つながる食育推進事業」を受け、下松市をモデル地域に指定して「食育プロジェクトK～健康で快適な食生活・食文化の継承を図る地域の力～」と題した食育実践に取り組み、モデル校3校の取組内容と成果等について報告書にまとめることができました。各学校、地域において、今後の食育の推進・充実のための参考としていただけたら幸いです。

最後に、山口県つながる食育推進委員の皆様をはじめ、関係者の皆様におかれましては、事業の趣旨に御理解いただき、御協力・御支援を賜りましたことに深く感謝を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

平成31年2月

山口県教育庁学校安全・体育課  
課長 原 井 進